

「患者対応がづらい」と感じるときに…

疲れない支援関係の 築き方と コミュニケーションスキル

- ✓ 断れない…
- ✓ 線引きが難しい…
- ✓ 気を遣い続けて
疲れてしまう…

～患者さんを突き放さず、必要な境界線を引くために～

境界線を引くことは、冷たくなることでも、支援をやめることでもありません。

無理なく継続できる支援関係をつくるために必要な視点を、

現場のリアルな事例をもとに一緒に考えます。

扱う事例（一部）



「ヤクザ呼ぶぞ」
「本部に言うぞ」と
すぐに闘鳴、地域で
たらい回しな患者さん



24時間対応とは
言うけれど…
深夜3時に「薬が
シートから出ない」と
電話をかけてくる患者さん



「気軽に相談
してください」が、
“毎日のLINE報告”に
変わっていく患者さん



非通知で電話を
かけてきて、一方的な
質問でどうしたいのか
分からない患者



歴代スタッフごとの
“特別対応ルール”が
増え続け、現場が
回らなくなる患者



「これってセクハラ…？」と
断言はしづらいけれど、
確実に怖さを感じる
患者への対応



相手と自分を大切にす支援のかたち、境界線を引くことの意味、
伝え方次第で関係が変わること、無理なく続けられる支援関係の
つくり方——。明日から使える視点とスキルをお持ち帰りいただけます。



開催日時

7月10日（金）20時～



開催方法

zoom



講師

村上 理奈

（一般社団法人 SRHR pharmacy PROject）



参加費

非会員 **2,000円**

※開催後1ヶ月程度アーカイブ視聴あり



申し込み

アスクラライフ研修から

<https://kenshu.asuyaku.life/trainings/2739>



主催 一般社団法人 SRHR pharmacy PROject

薬局・薬剤師が、性と生殖に関する健康と権利（SRHR）の視点を持ち、
すべての人にとって安心できる医療・支援を広げていくことを目指しています。

